

クオリティインディケーター(QI)成果報告 〔看護部・褥瘡ケアセンター〕

指標名

褥瘡推定発生率

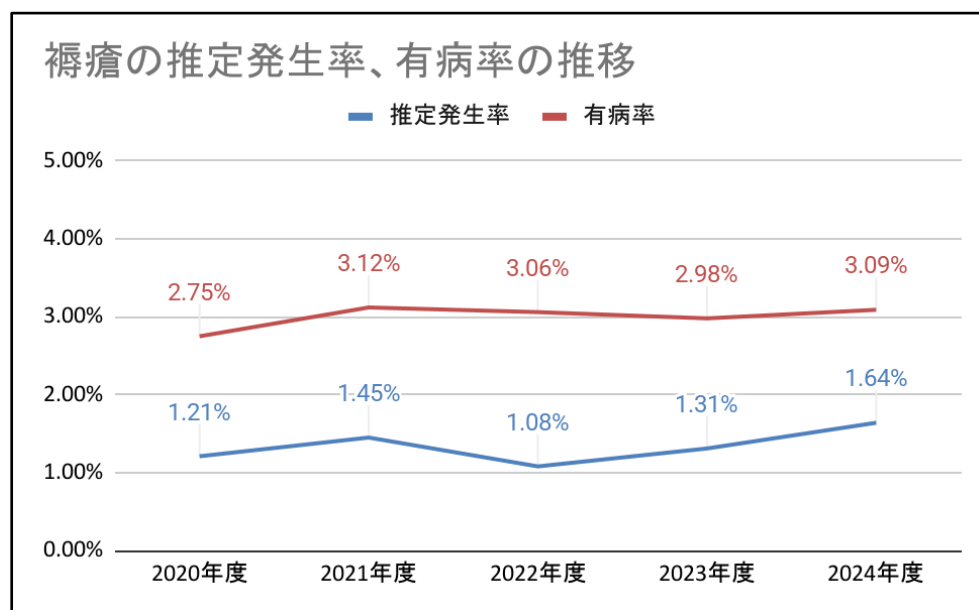
目標・ゴール

褥瘡推定発生率 1.04%以下

目標・ゴール達成による効果

褥瘡は疼痛やADL低下、感染の要因となり患者のQOL低下だけでなく、在院日数の長期化や医療費拡大に繋がる。このため、予防対策を提供することによって在院日数の長期化、医療費の拡大を予防できる

目標・ゴールに対する成果の状況



* 推定褥瘡発生率 = (調査日に褥瘡を保有する患者数 - 入院時既に褥瘡保有が記録されていた患者数) / 調査日の施設入院患者数 × 100

目標・ゴール達成度

- ☐S : 大幅に目標を上回って
- ☐A⁺ : 目標を多少上回って達成
- ☐A : 目標を達成
- ☐B⁺ : 目標を少し下回った
- ☒B : 目標を下回った
- ☐C : 目標を大幅に下回った
- ☐ー : 外的要因により継続困難となった。

目標・ゴールの成果と課題・改善策

2024年度は、「標準的な失禁ケアの強化」を中心とした褥瘡予防ケアに取り組んだ。その結果、病棟に所属する看護スタッフの85%が正しいパッドの選択やオムツのフィッティングを習得できた。

一方で、褥瘡推定発生率は2023年度よりも高値となり、目標値を大きく上回った。原因として、褥瘡ハイリスク対象者の増加（前年13%増）と支援不足が考えられる。褥瘡ハイリスク対象患者は、通常の褥瘡リスク者よりも褥瘡が発生しやすく、治療に時間を要し悪化するリスクも高い。院内発生褥瘡の49.0%を褥瘡ハイリスク該当者が占めていることから、2025年度は、褥瘡ハイリスク対象者への支援及びカンファレンスを強化することで、褥瘡発生率の低下を図る。また、褥瘡発生には体圧分散も大きな要因となることから、褥瘡予防ケア用品の整備も継続し、療養環境の質の改善に取り組む。